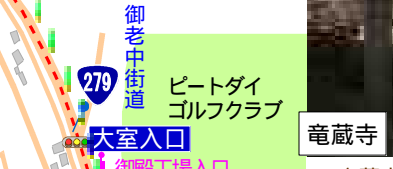


八坂神社

八坂神社の枝食い杉
八坂神社の鳥居前、2本の杉の根部が癒着した二又杉。一方の幹から分枝した杉が、接触していた他の幹の生長とともに癒着したもので、あたかも別の木の枝を食い込んでいような形をしています。



御老中街道
大室入口
御殿工場入口
高橋製作所
大沢の四本杉
大沢の古杉

大沢の四本杉
四本の杉が四角形の各点からほぼ同じ大きさで立ち、均整のとれた箱形の樹相をしている。これは、互いに倒木を防ぐための植樹法です。

大沢の古杉
松平正綱寄進以前の古い杉が数本ある。ここに大沢の木戸があった。戊辰戦争で大沢の斎藤縫蔵と板橋の由五郎が幕府軍の間諜を働いたとして佐賀藩兵に捕らえられ斬首獄門に処されたところ。

将軍休息所
「御社参・御法会等之節、御休所に相成候由」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)大沢小学校は竜蔵寺跡。寛文3年(1663)の四代将軍家綱より後の日光社参では、大沢御殿に代わって将軍の休息所となった。

大沢村
「大沢村は今市に続いたよい街並みで、宿屋に遊女どももいる。茶屋で昼食をとつたらなまずの吸いものがでた。呆れたまづいものであった。」(西遊草 清河八郎)

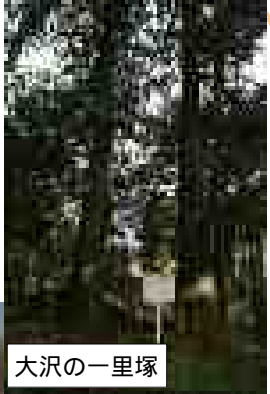
杉並木寄進碑
「山口村境より往還の左右杉樹蔚茂して日輝をもらさず」(日光道中略記)夏でもこの陰は涼しいほどである。寄進碑には「下野国都賀郡小倉村同国河内郡大沢村同郡大桑村自此三所至日光二十余年之間植杉於路傍左右并山中十余里以奉寄進 東照宮 慶安元年戊子(1648)4月17日 從5位下松平平右衛門大夫源正綱」(日光道中略記)徳川家譜代の家臣で武州川越城主松平正綱・信綱(正綱の甥で養子)父子が寛永2年(1625)から二十数年かけて紀州熊野から取り寄せた20数万本余りの杉苗を、日光道中・壬生街道・会津西街道の三街道の両側に延長37kmにわたって植えた。この寄進碑は日光神領との境界にあったので境石(さかいいし)とも呼ばれており、同様の碑は日光神橋前、日光市大桑、文鉄(ふばさみ)にも建てられている。



32 大沢一里塚
日本橋から32番目の一里塚で、左右の塚には木がなく、東の塚には2本の杉が生えている。この地名をとって「水無の一里塚」とも呼ばれている。水無と大沢の中間地点にある。日光杉並木街道中にはあわせて6ヶ所、11基が一里塚がある。

67 大沢宿 ~ 今市宿
栃木県日光市
大沢宿 ~ 水無
(歩行距離 2789m 35分)
歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp

明治百年記念 御殿開田の碑
「最後の留守居役安西甚作正高の孫正美、明治百年記念に開田す」と彫ってあり「今御殿番、安西某居宅(子惣次伊左衛門)これを守れり」(日光道中略記)大沢御殿最後の留守居役で家業を営んでいる安西甚作正高の孫正美が明治百年記念に開田した記念碑。



大沢御殿跡
「元和年中(1615~24)御造営あり。其後慶安元年(1648)御修復ありて、日光御参詣のたびここに御旅館となさせられ、其後御殿後取払になりしが、寛文年中(1661~73)ふたたび御造営、享保年間(1716~36)前にいたりて御とり私となり、今の形となる」(日光道中略記)
ここへ入る道は昔の堀跡で、途中の小川は「御堀跡川」(日光道中略記)。この川は西約100mで日光道中と最も接近するが、ここに道中から入る「大手」の橋が架かっていた。「大手」の跡より往還へ近し。今其間に水流ありて通路ならず。いにしへは橋ありしといふ」(日光道中略記)
将軍日光社参の休息所。北東側約半分が開墾されたが、南西側には土塁、枡形、井戸跡などが残っている。御殿は、元和3年(1617)大沢村周辺の領主であった結城山川藩主水野野元が建てた。元和・寛永期(1615~1644)の社参に使用されたが、寛文3年(1663)の社参以降は竜蔵寺が使われた。

王子神社
主神豊城入彦命に似仁王と、源頼朝を祀る神社です。境内には推定樹齢200年といわれる大イチョウは幹周り4m、市指定記念物になっています。

御老中街道の追分
右側に分岐して会津西街道大桑宿に至る街道。文政元年(1818)、幕府の老中水野忠邦が日光参詣の途中、大桑宿近くの景勝地に「籠岩」に立ち寄りたということから、当時の大沢村と岩崎村の農民たちが切り開いた。その後幕府重役たちがこの道をよく利用したためこの名がついたという。

杉並木街道の高低差
並木道はみなそうだが、車道部分が一段低くなっている。左右の並木の外側一段高いところにそれぞれ歩道がある。車道がいわゆる切り通しのようにになっている。これは暴漢に襲われるのを防ぐために、昔から高低差があり、今よりももっと高低差があったそうだが、今はむしる車道に路盤を入れるために昔より高くなっている。

御殿工場入口
「御殿工場入口」というバス停の名は、江戸幕府が滅んだ明治元年(1868)、安西氏がこの地を請い求め家業の材木業(材木工場)を営んだことから呼ばれるようになったという。

栃木県 日光市



杉並木寄進碑